

# 生活科学研究における学生の意識と教員の支援について

植田 和也

(学校教育)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

## The Student's Consciousness and the Teacher's Support in "Life Environment Research"

Kazuya Ueta

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

**要旨** 「生活科学研究」において土曜・日曜日を活用し集中的に取り組む地域探検活動に関する学生の意識をアンケート等により分析する。ここでは特にシラバスに記載した授業の目的・達成目標について考察する。さらに、それをもとに異領域・複数教員によって行われてきた本授業での学生に対する支援・指導のよりよい在り方と課題についても検討をする。

**キーワード** 地域探検活動 かかわり 知的な気づき 体験活動 集団での活動

### はじめに

昨今、学校において一人一人が集団の中で自分の居場所をみつけ、他者との関係の中で自分を位置付けることができるような人間関係づくり（なかまづくり）やそのための調整力を育てていくことが求められてきた。

その中核をしめるものは、生活科の目標にも示されている「人とかかわる」ということである。単に、子どもを人とかかわらせるのではなく、子どもの主体性によって人とかかわることを重視するのである。本授業においても「人とかかわる」ことを重視して、地域探検活動では専門家や地域の人々とのかかわり、さらにグループ内でのかかわりをもちながら活動が展開される。

本稿では、この地域探検活動に焦点をあてて学生の意識を分析するとともに授業の目的や到達目標についても検討を加えることとする。そ

の中で異領域・複数教員によって行われてきた本授業での学生に対する支援・指導についてもふれていきたい。

### 1 「生活科学研究」の授業内容

#### (1) 授業の概要と地域探検活動

2003年度より、「生活科学研究」では授業内容の中に高松市を中心とした香川県内における地域探検活動を位置づけてきた。この活動は本授業の核となる部分でもあり、学生にとってもまよとの意味をもつ。シラバスの一部を別頁の資料1に示した。

学生にとってこの地域探検活動は、各個人で行う「大学探検をしよう」、グループで取り組む「大学周辺の探検をしよう」を踏まえて行うものとなる。

本授業に臨むに当たり学生に対して主に次のような説明をした。まず第1に、学生自身が活動し体験することを通して、実践的に検討する

こと。次に、体験を通して得られた気づきをまとめ、それを表現する、という学習活動を積み重ねていくこと。そして、その中で充実した体験活動や深い気づき、豊かな表現のために必要なことを学びとっていくこと。それらをふまえて地域探検活動に取り組み、そこでの様々な気づきをまとめて発表会を行うこと。

さらに授業の目的・到達目標について「生活における気づきから広がる学びの世界をとらえられるようになること。最終的には、地域探検活動を充実したものとして実施でき、そこでの気づきを深め、グループでまとめ表現できるようになること。」を求めた。

## (2) 地域探検活動の主な内容

平成16年度における地域探検活動で取り組んだ内容について概観する。  
前期は51名の学生が14のグループで、後期は11名の学生が4つのグループで表1のような内容で取り組んだ。殆どのグループは、「大学周辺を探検しよう」で取り組んだ内容と直接的に関

連するものではないが、「大学周辺のケーキ屋さんからその原材料となる和三盆の秘密をさぐる」や「福祉センターでの調べから1日車いす体験をしよう」といったような内容の広がりや繋がりを意識して取り組んだグループもいくつかあった。

また、いくつかの観点で分けると次のようなことも傾向として指摘できる。

まず、伝説、今・昔、風習、伝統工芸、歴史を探るのように「伝統文化や歴史」に関するものに興味・関心が強い。第2に、うどん、まんば、しょうゆ豆、和三盆のような「郷土の食」に関する内容も多い。そして、女木島、男木島、大島、屋島、峰山等に関わった学生は、何となく聞いたことはあるがよく知らない場所に行ってみたいという思いも感じられる。また、殆どの場合にはインタビューによる取材や見たり発見したことを記録するという活動が主であるが、うどんづくりを体験したり、車いす体験を行ったりする活動もみられた。残念ながら生活

表1 平成16年度の地域探検活動で取り組んだ内容

平成16年度前期	讃岐名物うどん まんばのけんちゃんってナーニ！？ 男木島不思議発見！！ 人とかかわりのあたたかさ「いただきさん」 香川の特産品しょうゆ豆 香川の桃太郎伝説って！？ 屋島っ！！～豆まめ知識～ 高松城周辺の今・昔 突撃！！お店訪問～人とかかわりから学ぶ風習～ 「伝統工芸調べ隊」～香川漆器・讃岐提灯を訪ねて～ 女木島探検を通して知ったすばらしさとわかったこと 世界の中心で愛を叫び隊探検記 日本のふるさと－四国村－ 高松の歴史を探る	高松市内うどん店 高松市内J A, 農家 男木島 高松市内いただきさん 高松市仏生山しょうゆ豆工場 鬼無女木島 屋島周辺 高松城周辺 高松市内多賀神社周辺のお店 高松市内漆器・提灯関係のお店 女木島 庵治 屋島 四国村 峰山 岩清尾山
後期	大島の魅力とそこに広がる学びを発見 和三盆のルーツを探れ 宮脇町のつながり ミンナノオモイ～1日車いす体験を通して～	庵治町大島 高松市 さぬき市 東かがわ市 宮脇町商店街 高松市内（商店街JR等）

科の内容でも重視される自然や季節に関する探検活動は大学探検や大学周辺の探検ではみられたが、地域探検活動ではそのものを核に取り上げたグループはなかった。

## 2 地域探検活動に関する学生の意識

### (1) 自由記述の分析

まず、身近な場所に新たな気付きや発見をした一人の学生の感想を紹介する。

この学生は、「宮脇町商店街」についてグルー

今回、テーマを決めて調べるということで、普段とは違う活動となりとても新鮮で感動しました。私たちはいろんな人と出会い、その中でいろんな物語や地域のことを伺い、自分なりにいろいろと考えました。地域の人とのふれあいは大切だなあと改めて思いました。また、大学の近くのなににも知らずに素通りしていたんだなーって振り返りました。

グループで考えることで自分だけの意見に偏らずに様々な意見が出て、よりよい活動ができたと思います。このように一つのテーマをグループで調べることができ、とても楽しく勉強になりました。

で調べる活動に取り組んだ。その際、商店街の様々な人々の協力を得て活動が展開した。その中で、自分たちの町や仕事に誇りをもち日々を過ごしている姿に感銘を受けたり、地域や身近なことも意識せずに過ごしてきた自分を見つ

め直したりしている。他の多くの学生にもそのような意識が自由記述の感想から見られた。

地域探検活動に関わる探検・表現・発表の全ての活動終了後に学生一人一人が振り返った感想(自由記述)は主に以下のように分類できた。

それ以外にも、少数ではあるが「子どもの頃の好奇心が戻ってきた、調べることには終わりが無いことを感じた、これからの自分に大きなプラスになった」等があげられた。

また、自分たちの態度に関する反省として「質問の仕方や話を聞くマナーの大切さを感じた…1名」という内容も見られた。(別頁の資料2参照)

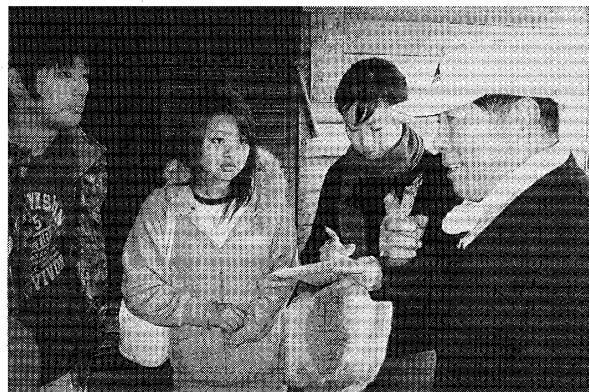


写真1 『和三盆のルーツを探れ』グループの地域探検活動(現地での聞き取り) —さぬき市での白下糖づくりについての調査風景—

表2 地域探検活動後の主な内容

(前期:2004.6.20 49名, 後期:2004.12.12 11名 合計60名の感想)

感想に書かれた主な内容	人数(%)
多様な人から直接に聞き取る等、自分で調べることの楽しさや大切さを痛感	35 (58)
人とのかかわりを通じて人の優しさを強く感じた	28 (47)
体験を通して身近な場所に多くのよさやすばらしさがあることを実感し感動	19 (32)
一人でなくてグループで活動し協力することの重要さに気づいた	14 (23)
今後は日々の生活の中でもっと様々なことに興味をもち注意して見ていきたい	12 (20)
精神的な学びや本当の体験を通して、心を動かされたり考えさせられたりした	11 (18)
積極的に何でも学ぼうとする意欲の大切さを感じた	6 (10)
体験したことを表現し伝えることの難しさに気づいた	5 (8)

## (2) アンケートによる分析

前述の自由記述と併せて以下の5つの点について4件法で「自分の考えや感じ方に一番近いと思うところに○をして下さい。」というアンケートを行った。

- ①自分では積極的に調べ活動ができたと思う
- ②自分は、まとめることや発表することに意欲的にできたと思う
- ③今回の活動は自分にとって、新たな気づきや驚き、大変印象的なことがあったと思う
- ④今回の活動を通して、人とのかかわりをもったり、その重要性を感じたりしたと思う
- ⑤グループとして、協力したり助け合ったりして活動できたと思う

その結果は図1の通りである。

ここではアンケートの自己評価をもとに学生の意識とともにシラバスに記載した到達目標の成果を検討していく。

まず、全体を通して学生の反応からみるとどの項目においても90%以上の殆どの学生が肯定的に捉えていることが指摘できる。特に項目の③④⑤では65%以上の学生が「大変よくできた」と回答している。これは、人とのかかわりを通して新たな気づきや驚きがあり、大変印象的な体験活動となったことを裏付けていると言える。そして、そのことが一人ではなくて、グループでの協力や助け合いがあったからこそ成し得たということにもなる。そのような点からも多数の学生にとって、課題解決の対象に自らかかわり意欲的な地域探検活動となっていたことが伺える。

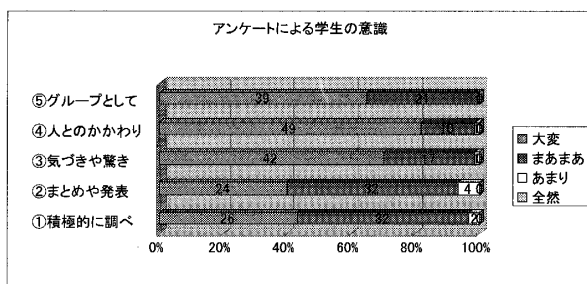


図1 地域探検活動後の学生の意識

(詳細は別頁の資料3を参照)

前述のように殆どの学生にとって有意義な活動であったと言えるが、本授業のオリエンテーションで説明した「実践的に検討すること」や「ただ体験したというのではなく充実した体験活動や深い気づきがあったか」ということについては、グループでの活動内容による違いも影響することを考慮しなければならない。また、どのような点で実践的に検討できたのか、どのようなことを充実した体験活動として判断しているのか等についても、学生からより詳細にその根拠を問いただすことが必要であると考えられる。

また、到達目標で掲げた、「気づきから学びの世界が広がっていたのか」、「地域探検活動が充実したものとして実施されて気づきが深まったのか」という点についても、個人差や内面的な変容をどこまで把握できるかという点からも、アンケートの結果だけから一概に十分であるとは言えない。

各教員の活動中における評価や学生個人の自由記述・アンケートから活動の充実や気づきの深さを十分に感じ取れた学生が多くいたことは確かな事実である。だが、その充実度や深さは同じ表現や回答であっても差異があることを考慮するとともに、今後はその点に関するアンケートの内容を再検討しなければならない。また、学生自身が活動について振り返る時間の確保も十分に行いたい。

## (3) 相互評価の内容の分析

各グループの発表を聞いた後に相互評価としてコメントを記述して回収した。その内容を分析すると主に次の4点に関する肯定的な意見が最も多くあげられた。

- ①発表の方法や手段について
- ②課題や目的の明確化の大切さ
- ③調べる内容と人とのかかわり
- ④体験すること自体の価値

特に、発表の方法や手段については、文章での表現だけでなく多様な工夫がみられたことに関しての肯定的な内容であった。例えば、クイズ、試食、模擬体験を取り入れた参加型の発

表、紙芝居や地図を利用した発表、VTRやデジタルカメラでの映像を生かした発表、ストーリー性をもたせた役割演技による発表等が見る立場から非常に効果的であったと評価されていた。このような方法や手段は教育実習等でも実際に生かせるであろう。また、相互評価において、より気をつけるべき改善点として多くあげられたのが、

①分かった事実を伝えるだけでなく自分たちの思いや感じたことを更に表現すべき、

②より効果的な表現と内容に応じた伝達方法を考慮すべき、

といった2点である。つまり、より深い考察と自分とのかかわりで事実や内容を捉えていくことの重要性、伝えたいことをいかに分かりやすく工夫するかといった方法に関する指摘であった。

### 3 地域探検活動に関する考察

#### (1) 体験と表現の両輪をつなぐ支援

活動や体験で学んだことを表現物にして作り上げることには、多くの意義がある。まず、表現によって思考が深まる点である。表現することは必ず思考を伴い、活動や体験が「ただ楽しかった」でなく、その意味を考えたり自分自身を客観的に見つめられたりすることで、思考が広がり深まることに繋がる。そして、学習の過程を表現物にしていくことで課題解決に向けて意識や意欲の連続化が図られる。

この地域探検活動においても、学生が土曜日に調べたり学んだりしたことが、グループによるまとめと表現活動を通して体験の再構築がなされる。そして、日曜日に他の学生に対して伝達するという発表活動を通して、学んだ過程をふりかえり、自分自身の認識の深まり伸びを感じ取る自己評価につながっていくのである。つまり、体験活動を通して表現したものは、体験活動で得た意識や学びを思い起こしたり、そのときの自分を振り返ったりする点からも重要となってくる。

実際に小学校における生活科や総合的な学習の時間の表現物は、前の体験活動とその学習の

時間の意識の連続を図ったり、その時間により発展する課題意識や価値認識を育み、次の体験活動や学習活動・実践活動につなげる役割も果たしている。

そのような点からも、学生にとっては体験活動の重要性や意義を感じ得るのはもちろんであったが、それにもまして表現すること・発表することの重要性を改めて実感したのではないかと思われる。

体験活動を終えて、土曜日の深夜までグループ内で「このことをあんなふうに伝えてみたい、これは、こうすればよく分かるのであろう。これは・・・で表現すればよさが明確になるのでは・・・」と友だちと共に悩んでいる過程にこそ自己意識の深まりやグループの連帯感の共有を感じる学びの時間が存在していたといえる。

学生の感想にもみられたように、表現することで伝え合うという行為、そして自分の思いを正しく、しかも相手に理解してもらうように話すことは難しいのである。

体験したことをもとに自分自身に問いかけ、言葉を選び、組み合わせていかなければならない。確かに、充実した体験活動が行われていたと推測されるが、さらに、話すことや書くことで自分の思いを適切に誰かに伝えて、人と人の心のつながりがより深まる力をつけて欲しいと願う。そのためには、どのような学習材や支援がより必要なのか、うまく表現できていない学生の原因をどう考えるのか、我々教員も授業の中でそのような意識をもちながら、学生から指導力のヒントをより多様に探し出さなければいけないと考える。

#### (2) 集団における個の活動を支援

本授業のようなグループ活動においては、協力して助け合うことや、役割分担して活動することが多くの場面でみられ、集団での活動における個の役割が重要であることを学生自身も再認識していた。

各グループの中で活動中に自分が何をしているのか十分に分かっていない学生、自分が他の人に具体的にどうかかわればよいのか自信が持

てない学生、自分の役割が明確になっていないためか、ただそこにいるだけで終わってしまいがちな学生も若干みられた。

このようなグループ活動では、グループの課題解決を大切にしながら、個と個が互いに支え合い、友だちの考え方や感じ方を尊重し合い、高め合うことができる機会と場がなければならない。このような集団と個のかかわりによって、自己意識が育まれていくのである。そのためには、学生一人一人が集団としての課題をしっかりともち、集団の中での自分を意識できることが重要であることを学生自身の感想や反省からも感じられた。これは教員をめざす学生にとって大変重要な気づきであったと思える。

我々教員も学生たちの活動を支援しながら、人とのかかわり方や各グループでの人間関係を把握したり、自分たちで話し合い役割をもちグループ活動ができていくのを見守っていきたい。

### (3) 地域探検活動における課題

最後にこの地域探検活動に関して、学生の活動風景や感想、教員間での話し合いから明らかになった課題をいくつか指摘する。

まず、学生数と教員数の割合が前期と後期ではかなり違うために各グループへのかかわりが特に前期は限定されることである。実際に相談にのったり行動を共にしたりする時間にも差異が生じる。一人の教員で複数のグループを担当するが十分にかかわりがもてなかったり、状況の把握にも対応の限界がある。現在のところは事前の調べや時間の有効利用を意識して支援している。また、携帯電話等で連絡しながら状況把握も行ってきた。今後は前期と後期の内容を人数等により若干見直したり、日程の改善を図る等が考えられる。

次に、到達目標と評価の関連をより明確にして、生活科研究を異領域の新しい教員が担当して構成しても引き継いでいけるようにすることである。現在は、出席状況や学生の最終レポートに加えて、大学探検等のまとめや地域探検活動後の自己評価と相互評価、教員による活動中

の形成的な評価や情報交換による評価等を総合的に検討を加えて行ってきた。授業の目的や到達目標に掲載した「実践的に検討すること」や「充実した体験活動や深い気づき」「気づきから学びの世界が広がっていたのか」等を具体的に評価の際にどのように把握しているのか、その信頼性を高めていく工夫や努力が一層求められる。

最後に、他の授業との関連や効果的な位置づけの問題である。「生活科教育法」、「生活科授業研究」との内容の違いや望ましい履修の在り方について分かりやすい説明が必要であろう。例えば、シラバスで示すことに加えて、学部 の全教員が共通理解を図り、何らかの形で学生に説明できる時間と場を工夫することが考えられる。

本授業は、生活科の講座や研究室が設けられていない状況下で異領域の複数教員が授業の展開や状況に応じて何度も集まり相談しながら学生を支援してきたことで継続されてきた。そして、受講した殆どの学生にとって大変有意義で充実した授業内容を作り出せている今の状況をいかによりよいものに構築していくかという問題も議論されてきた。異領域の複数教員が共に担当すること自体に大きな価値があり、学生にとっても多様な支援が提供できてきたと振り返る。「生活科研究」という授業を支えるこのシステムを継続していくためにも、上記の課題を解決しながら改善していくことが学生にとっても教育学部にとっても重要なことであると考えられる。



写真2 『いただきさん』グループの地域探検活動（日曜日の発表）

参考文献・参考資料

- 1991年・生活科で育つ子どもたち 加藤明 第一法規  
 1999年・小学校学習指導要領解説生活 文部省  
 2003年・生活科研究レポート集 香川大学教育学部  
 2004年・生活科研究レポート集「生きる学びの報告集」香川大学教育学部

資料1 「生活科研究」授業計画

授業計画（シラバスより一部抜粋）

- ①オリエンテーション（担当教員の紹介，受講上の注意など）
- ②学習指導要領に基づく生活科の目標と内容の確認，表現物に学ぼう，表現するために何が大切か  
VTR等によるこれまでの生活科研究の紹介
- ③Aグループ「身体を使って，体ほぐし，心ほぐし」（岩清尾八幡）  
Bグループ「自然を使ったものづくり」
- ④Aグループ「自然を使ったものづくり」  
Bグループ「身体を使って，体ほぐし，心ほぐし」（岩清尾八幡）
- ⑤大学探検をしよう：「あのね〇〇を見つけたよ」各個人で探検まとめる  
こんな身近なところでもふしぎや驚きがいっぱい  
自分の感性を生かして感じよう見つけよう五感を使って
- ⑥大学周辺の探検をしようグループで探検グループでまとめる  
人々，社会，自然とのかかわり  
知らなかったこと気づいていなかったことふしぎ発見
- ⑦大学周辺の探検で気づいたことをまとめてみんなに発表しよう  
どうまとめるかどのように表現するか
- ⑧地域探検の計画を立てようⅠ
- ⑨地域探検の計画を立てようⅡ
- ⑩土曜日を使って地域探検に出かけよう
- ⑪土曜日を使って地域探検に出かけよう
- ⑫土曜日を使って地域探検のまとめをしよう
- ⑬日曜日を使って体験発表会
- ⑭日曜日を使って体験発表会
- ⑮「生活科研究」交流集会・まとめ

資料3 地域探検活動後のアンケートによる学生の意識

（前期：2004.6.20 49名，後期：2004.12.12 11名 合計60名）

	大変よくできた			まあまあできた			あまりできなかった			全然できなかった	
	前期	後期	合計	前期	後期	合計	前期	後期	合計	前期	後期
①	17	9	26	30	2	32	2	0	2	0	0
②	20	4	24	27	5	32	2	2	4	0	0
③	31	11	42	17	0	17	1	0	1	0	0
④	40	9	49	8	2	10	1	0	1	0	0
⑤	30	9	39	19	2	21	0	0	0	0	0

\*文中のグラフは合計数をグラフ化

生活科研究「今回の体験学習を振り返ろう」

2004. 12. 12 (Sun)

「町探検 ～香川を調べよう～」

学籍番号

名前

- ★ 今回の体験学習をふりかえり、あなたの考えを書きましょう。  
 あなたが一番心に残ったことや自分たちのグループで学んだことをふりかえり、今回の体験学習についてどのように感じたり考えたりしましたか。  
 自分なりにまとめてください。

とてもよい体験学習になったと思います。自分の中に気づきや発見が多くあったのでとても意欲的に活動することができました。また、大きな影響をうけた人に出会えたことで、「伝えたい」とか「いろんな人に知ってもらいたい」という思いになり、発表に対して、積極的に取り組むことができましたのだと思います。けれど「調べる」ときは終わりがなかなか、ないなと思いました。

自分の考えや感じ方に一番近いと思うところに○をして下さい。

- ☆ 自分では積極的に調べ活動ができたと思う

大 変 できた                      まあまあ できた                      あまり できなかった                      全 然 できなかった

- ☆ 自分は、まとめることや発表することに意欲的にできたと思う

大 変 できた                      まあまあ できた                      あまり できなかった                      全 然 できなかった

- ☆ 今回の活動は自分にとって、新たな気づきや驚き、大変印象的なことがあったと思う

大 変 あった                      まあまあ あった                      あまり なかった                      全 然 なかった

- ☆ 今回の活動を通して、人とのかかわりをもったり、その重要性を感じたりしたと思う

大 変 よく感じた                      まあまあ 感じた                      あまり 感じなかった                      全 然 感じなかった

- ☆ グループとして、協力したり助け合ったりして活動できたと思う

大 変 よくできた                      まあまあ できた                      あまり できなかった                      全 然 できなかった